4.観光振興計画の概要

4-1. 観光振興計画の目標

豊かなオホーツク海と肥沃な大地からもたらされる恵みにより、農業や漁業などの第一次産業が網走の基幹産業として発展してきた。今後、より一層の地域経済の活性化を図るためには、網走市外からの外貨を稼ぐとともに、網走における一次産品の生産と域内の消費とを連動させ、市内での経済循環を促進する仕組みを構築し、強固な自立的経済構造へと転換していく必要がある。

その経済循環、基幹産業がもたらす地域資源の価値最大化を図るうえで鍵となることが、観光業に期待されている。

本市では、観光振興を観光業に限定したものとして捉えるのではなく、地域経済全体のプラスの波及効果を生み出す役割を担うものとして捉える。観光振興により網走の第一次産業をはじめとする他の事業者に好影響を及ぼし、付加価値向上による単価の上昇や売上総量の増大へとつながるものと考え、観光消費額を高めることを観光振興計画の狙いとして考える。

キャッチコピー

農業や漁業などの第一次産業が盛んに行われ、豊かな産品が生まれる網走。それらを活かした食の魅力をさらに高めるべく、網走の有する歴史・文化や自然景観、農業景観、その他の空間を、多様な人々が関わり、活用し、相互交流を促進することによって、より一層の高付加価値化を引き出す。

網走の持つ多くの地域資源を通じて、訪れる人々の印象に残り、評価され、選ばれるまちであり続けることを指向することを表現した。

『網走を味わう。心にぎわう。』

～地域資源を活かした
“おいしいまち”網走の確立と進化～

なお、本目標の達成を目指すうえで重要な要素となる 3 つの視点、①観光客の獲得、②受入基盤の整備、③回遊性の促進による消費拡大を図る指標として以下の数値目標を設定します。

指標	現状(2017 年)	2023 年
観光消費額	131 億円	182 億円
観光入込客数	162.4 万人	199 万人
宿泊客数	38.5 万人	46 万人
（日本人宿泊客数）	34.4 万人	36 万人
（外国人宿泊客数）	4.1 万人	10.0 万人
日帰り客数	123.9 万人	153 万人
平均宿泊日数	1.25 泊	1.30 泊
網走の観光満足度		80%
リピーター率		40%
網走への再訪意向		60%
「おいしいまち」認知度*		60%
おもてなしへの参画意向*		30%
おもてなしへの参画経験*		5%

*調査システムによるデータの収集を実施

※目標値の算出

日本人宿泊客：過去 5 か年平均伸び率から毎年＋1%の伸びで計算

外国人宿泊客：北海道の目標値 500 万人から網走市の道内シェアにより計算

日帰り客：過去 5 か年の伸び率と同様の比率で計算

消費単価（宿泊客＝23,018 円）：2016 年度の消費単価 21,922 円に年平均伸び率 1%で計算

消費単価（日帰り客＝10,532 円）：2016 年度の消費単価 6,470 円と他都市の金額の中間値で計算

満足度、再訪意向は北海道の観光動態調査・満足度調査を参考に決定

リピーター率：2016 年の観光消費動向調査結果から毎年＋1%の伸びで計算

外国人宿泊客と日帰り客については 2020 東京オリンピック・パラリンピックの開催前後に、オホーツク・知床方面への来訪増加を見込んだ数値となっています。

4-2. 基本方針

網走市の観光振興は、次の 4 つを基本方針に据えて、進めてまいります。

（1）自然資源・文化・社会資源を活用した網走型観光の確立

網走の地域資源の魅力を明確にし、その活用の最大化を図り、観光消費の増大や滞在時間の拡大を図る。

（2）滞在コンテンツの磨き上げと開発や、効果的な情報発信による網走の魅力を高める環境整備

国内旅行者や今後も増加が期待される外国人旅行者に対して、網走の食や観光の楽しみ方を PR するとともに、網走の多様な魅力を存分に体感できる満足度の高い滞在コンテンツを提供する受入体制の整備を行う。

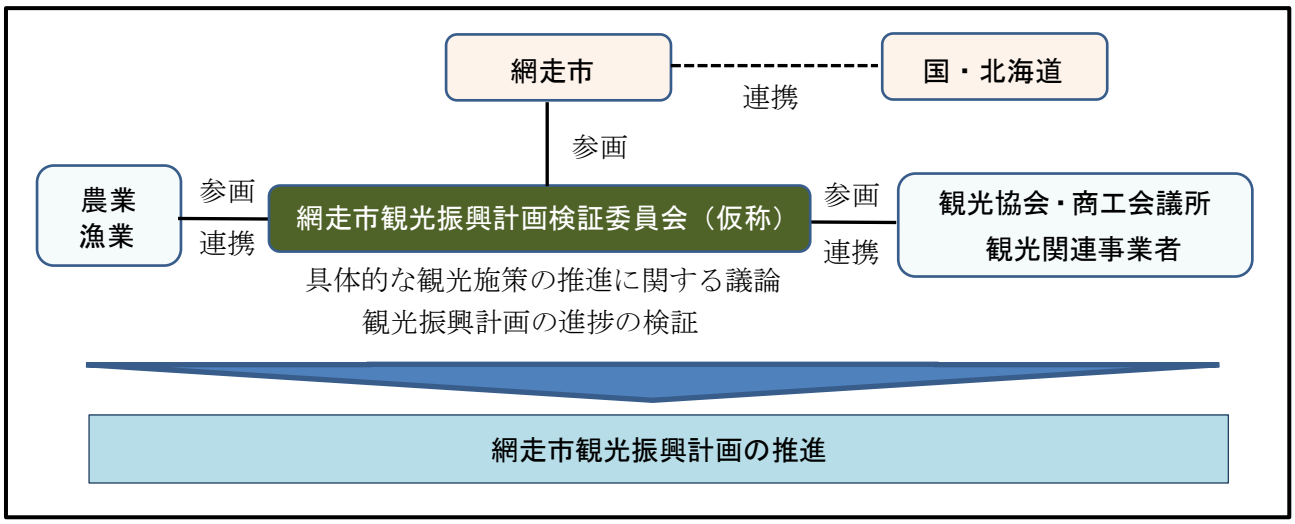
（3）交通環境の利便性向上による観光客の流入促進と回遊性の向上

道内を訪れる観光客が網走を選び、容易にアクセスするための環境づくりを推進するとともに、網走の誇る様々な観光ポイントを回遊し、その素晴らしさに触れることのできる機会の確保・提供を推進する。

（4）観光振興を牽引する組織体制の構築および人材の発掘と活用

地域の今後の発展に寄与するような事業や取組を見出し、単体での動きを地域全体での動きとして昇華させたり、多様な事業主体による連携を促進する推進組織の構築および人材育成を図る。

4-3. 推進体制

毎年 3 月に観光振興計画の進捗の検証を行います。

＜推進体制図＞